令和５年度

# “村政運営”の基本方針

山田村長が今年度、どのような考えで、どのような事業に取り組んでいくのかを見ていきましょう！

## 01 第６次総合計画の推進

**■第６次総合計画**

これまで、「未来を担う人づくり」の一つとして取り組んできた「東海村つながるプロジェクト（T-ｐｒｏｊｅｃｔ）」では、「つながるトーク」や「つどえるサロン」、官民共創メディア「スマホクリエーターズＬａｂ.」など、「対話」と「交流」を促す具体的な試みを通して、新たな人のつながりが生み出されてきたと感じています。また、昨年12月にイオン東海店内にオープンした、民間団体が運営する「みんなの図書館“ａｍｉｓ（アミィ）文庫”」には、本を通して人と人がつながる拠点となるよう期待しているところです。今年度も、こうした民間による新しい動きやアイデアを生かしながら、さらなる「人づくり」や「つながりづくり」に取り組んでいきます。

**■まち・ひと・しごと創生総合戦略**

重点的に取り組むべき分野横断的ミッションの一つとして掲げている「健康づくりとスポーツがリンクする“元気な”まちづくり」を実現するために、「歩く」という行動に着目した「ウオーカブルなまちづくり」を新たに展開します。気軽に取り組むことができる「ウオーキング」を軸とした、「“楽しい”健康まちづくり」を目指します。

## 02 「ＤＸ」および「ＧＸ」の推進

ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）については、引き続き、行政手続きのデジタル化やＩＣＴ（情報通信技術）を活用した職員の働き方改革、高齢者をはじめとしたデジタル対応への支援に取り組みます。また、ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）については、公共施設への再生可能エネルギーの導入推進を図るとともに、村民の皆さんの暮らしにおいても、脱炭素社会への取り組みが無理なく進められるよう、新たな支援策を講じるなど、村全体で推進するという意識を持ち、その実現を目指します。

## 03 次世代への投資

人財育成においては、継続的な施策の推進が欠かせません。特に、次世代を担う子どもたちへのアプローチは、まさに投資であると考えています。子どもたちに村への愛着や関心を持ってもらい、将来活躍できる環境をつくっていくための方針を明確に定め、複数年度にわたって取り組みを継続することで、成果につなげていきたいと考えています。一方、社会インフラ等の整備についても、次世代のまちづくりに欠かせない大切な投資であるため、これまでと同様に計画的に推進するとともに、今年度はその管理や活用方法について、新たな手法の調査研究を進めます。

## 04 原子力政策

原子力発電所をはじめとする複数の原子力施設を抱えていることを踏まえて、原子力災害時の適切な避難行動を村民の皆さんに理解していただくための工夫を検討し、引き続き、県や関連自治体と連携して、広域避難計画等の策定に取り組みます。原子力政策については、本村のまちづくりと密接に関連していることから、慎重かつ丁寧に対応していきます。

# 最重点施策

## 「選ばれる」まちづくり

**～東海村に住み続けたいと思えるように～**

若い世代のニーズを踏まえながら、転入者増加に向けた施策を講じるほか、シティプロモーションを東海村の魅力を理解してもらうための「人づくりの仕組み」と捉え直し、リスタートします。また、「ウオーカブルなまちづくり」を目指して、環境整備や仕掛けづくりなど、ウオーキングの普及を強化する施策を展開します。

## デジタル化への対応

**～村民の皆さんにデジタル化のメリットを～**

窓口業務におけるＤＸ推進の実証に取り組むほか、高齢者のスマホ活用支援（デジタルディバイド（情報格差）対策）を継続していきます。また、インターネット上で電子資料を貸し出す「電子図書館」や、ドローンや生産管理システムを農業に取り入れる「スマート農業推進支援事業」などをスタートし、より戦略的にデジタル化を推進していきます。

## グリーン化の推進

**～環境に優しい社会を目指して～**

電気代等の高騰と脱炭素社会へ向けた取り組みとして、家庭生活や事業者への支援を行います。各家庭に向けては、省エネ機能が高い家電や電気自動車の普及を促進するために、購入費用の助成を行います。また、製造現場における省エネへの取り組みを促進するため、事業者への補助金を拡充するほか、公共施設のＬＥＤ化等を進めていきます。

## 継続的な人づくり

**～「地域の担い手」につなげる取り組み～**

「6・3・3ｐｌｕｓとうかいっ子育成プロジェクト」のほか、村内の高校生が地域課題に向き合い、まちづくりに参画するきっかけを提供する「まちづくりスクール」を展開します。また、Ｊ-ＰＡＲＣセンターと連携し、子どもたちと一緒に宇宙線ミュオンを活用した古墳の発掘調査を行う等、サイエンスシティとしての人づくりも進めます。

## 生活基盤の整備

**～都市環境基盤の整備で利便性を向上～**

住宅取得ニーズが高まる中央地区の土地区画整理事業については、「神楽沢近隣公園」の早期完成に向けた整備を進めるほか、新たに中央４号公園の整備を行うことで、地域の魅力をさらに向上させます。また、ＪＲ東海駅東口駐輪場の過密問題解消へ向けた対応や、国道６号線および水戸外環状道路の整備への協力など、さらなる事業の推進に向けて取り組みます。

## セーフティネットの構築

**～安心して暮らせるまちを目指して～**

支援を必要とする方へのサポートを強化するため、「外出支援タクシー利用料金助成事業」を拡充するほか、避難行動要支援者に対する個別の避難計画作成に取り組みます。また、子育て世帯に対し、国の施策である「出産・子育て応援交付金」に加えて、村独自の支援を上乗せするなど、「選ばれるまち」にもつながる取り組みを展開します。